



## 薬用植物園一般開放を開催

薬学部附属薬用植物園では、恒例の薬用植物園一般開放を 10 月 16 日(月)～20 日(金)の 5 日間開催します。園内では、薬用植物を含む約 800 種の植物を観察することができます。また、研修室では、藍を使って描かれた植物画の展示や、様々な香りの植物から抽出されるアロマオイルの展示・解説及びハッカ油抽出の実演を行います。

本薬用植物園開放では毎年県内外から多数の皆様が来園され、好評を得ております。開園時間は 9 時～17 時です。

なお、本開放は「国立大学フェスタ 2017」(<http://www.janu.jp/univ/festa/>)の一環として実施するものです。(期間中、約 1,000 名余りの人が来園されています。県民への報道よろしくお願ひします。)

### (報道概要)

#### 薬用植物園概要:

園内では絶滅危惧植物園、水生植物園、民間薬園、漢方薬園、ハーブ園等のテーマ毎に配置した約 800 種の植物を観察することができます。ご来園の皆様は園内を分かりやすく観察していただけるよう、概要図と園内見所をまとめたチラシを準備していますので、それを手に園内をご覧ください。また、北側と南側エリアそれぞれに、休憩ができる東屋があります。本年の一般開放の見所は以下の通りです。

#### 園内の見所:

**絶滅危惧植物園:** 絶滅危惧植物ハマビシが群落を作っています。自転車をパンクさせるほど鋭い金平糖のような果実を観察してください。

**水生植物園:** 北側の池付近では、ノブドウが青色や紫色のカラフルな果実を実らせています。南側の池では、直径 1m ほどの大きな葉のオニバスが、一面に広がっています。

**民間薬園:** ハブ茶の原料になるエビスグサ(種子の生薬名「決明子」はミュージシャンのグループ名の由来)が大群落を作り、たくさんの果実を付けています。また、弘法大師の薬草のひとつヒキオコシ(延命草)の群落も見ることができます。

**漢方薬園:** 徳島県出身で「薬学の祖」と言われる長井長義博士に縁のある薬用植物マオウ他、多くの漢方処方薬のもとになる植物をご覧ください。

**温室:** ギネス第 2 位の強烈な辛さのトウガラシ・ブートジョロキアやシャネルの 5 番の原料となる植物イランイランを観察することができます。

**樹木園:** 徳島県で発見された貴重な野生絶滅植物のコブシモドキを、近縁種コブシとあわせて観察することができます。

研修室の展示:

藍を使った植物画展: 今年には絵画サークルの皆さんによる藍だけで描いた植物画や、藍で染めたフランス製アルシュ水彩紙に描いた植物画等を展示します。藍で描いた青色だけの植物画はとても趣があり、いずれもとても素晴らしい作品になっています。

アロマオイルの展示とハッカ油抽出の実演: アロマオイル(精油)は、植物が産生する揮発性の油で、特有の芳香をもつため、アロマテラピー等で用いられるほか、香料として食用にも用いられています。研修室にて、様々なアロマオイルの展示・解説を行います。また、ハッカ油は爽やかなメントールの香りで広く親しまれているアロマオイルですが、消臭やリフレッシュだけではなく、最近では虫除けにも使われています。本年は、薄荷からハッカ油を抽出する実演を行います。



お問い合わせ先

部局名 薬学部

責任者 柏田 良樹 (薬用植物園長)

担当者 今林 潔

電話番号 642-1444 (薬用植物園)

メールアドレス [kasiwada@tokushima-u.ac.jp](mailto:kasiwada@tokushima-u.ac.jp)